

2010年に常用漢字表が改定されました。

JIS X 0213 を使うと、改定後の常用漢字表に、字種も字体も問題なく対応できます。一方、旧規格の JIS X 0208 では、一部の字体に、常用漢字表との間に相違があります。こうしたことは、経済産業省から調査報告が出ています（本ページ末尾の参考文献）。

新しい常用漢字表には、JIS X 0213 で第3水準に分類される漢字が4文字あります。下記にそれらの漢字の面区点番号を記します。

- ・ 1-15-56
- ・ 1-15-94
- ・ 1-47-52
- ・ 1-93-90

こうした文字は、JIS X 0213 の符号化方式の EUC-JIS-2004, Shift_JIS-2004, ISO-2022-JP-2004、あるいは Unicode の符号化方式の UTF-8, UTF-16, UTF-32 を使うと符号化できます。

2012年には JIS X 0213 が改正され、改定された常用漢字表の個々の文字との対応関係が記されました。この改正は追補の発行という形で行われています。JIS X 0213:2000 に対する追補2がこの改正にあたります。追補2の附属書12に、常用漢字に対応する JIS の面区点番号が掲載されています。

JIS X 0213:2012 にもとづいた常用漢字の文字コード表は、機械可読な CSV 形式で当サイトから入手可能です。（[常用漢字と文字コードの対応表](#)）

参考：

- ・ [経済産業省、改定常用漢字表に対する JIS 漢字コード規格の対応状況について](#)
- ・ JIS X 0213:2012
- ・ [文化庁、常用漢字表（平成22年内閣告示第2号）](#)

コメント